



2020年5月22日

各位

会社名 株式会社コロワイド  
代表者名 代表取締役社長 野尻公平  
(コード番号 7616 東証第一部)  
問合せ先 取締役 瀬尾秀和  
(TEL 045-274-5970)

**新型コロナウイルス感染拡大による影響  
及びその他営業費用(減損損失)・金融費用(投資有価証券評価損)の計上  
並びに通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ**

当社は、2020年3月期連結会計年度末において下記の通りその他営業費用(減損損失)・金融費用(投資有価証券評価損)を計上するとともに、2019年5月9日に公表致しました通期連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせ致します。

記

1. 新型コロナウイルス感染拡大による影響

新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響額は、売上収益が△6,845百万円、利益面については以下の通りです。

事業利益(△損失)(注)	△2,288百万円
投資有価証券評価損	1,466百万円
減損損失(追加分)	9,954百万円
閉店損失引当金繰入(追加分)	240百万円
損失合計	△13,948百万円

(注) 事業利益 = 「売上収益 - 売上原価 - 販売費及び一般管理費」により計算しております。

2. その他営業費用(減損損失)の計上

減損損失につきましては、過去数年に亘り継続して計上してまいりましたが、当連結会計年度末において将来的な発生リスクについても区切りをつけるべく、追加的に9,954百万円の処理を致しました。

現時点における対象店舗だけでなく、新型コロナウイルスが沈静化した後、お客様の生活習慣の変化によって将来的に収益性が低下すると予想される店舗についても、今回減損対象に含めて処理を行っております。

具体的には新型コロナウイルスの感染拡大が引き金となって、多くの職場においてテレワーク(在宅勤務)の勤務形態が広がり、教育現場でもオンライン授業が一部で始まっており、このような勤務形態や生活形態が今後定着すると考えております。したがって消費習慣やアフター5の過ごし方も大きく変化すると見込まれることから、これらに速やかに対応すべく減損損失の追加的計上、また店舗の統廃合を機動的に行うため、居酒屋業態を中心に追加的に196店舗の直営店及び北海道CKに対し、閉店に対する会計処理(減損損失及び閉店損失引当金繰入の計上)を行いました。

これにより上述の変化を見据えた準備と共に、2021年3月期における事業利益は、減損損失処理による減価償却費の減少及び閉店による赤字額削減により、3,258百万円の利益押し上げ効果が発現致しません。

### 3. 金融費用（投資有価証券評価損）の計上

当社及び連結子会社が保有しております投資有価証券におきまして、新型コロナウイルス感染拡大の影響による株式市場下落を受け、当連結会計年度末に1,466百万円の投資有価証券評価損を計上致しました。

### 4. 通期連結業績予想数値と実績との差異

#### (1) 2020年3月期通期連結業績予想数値と実績との差異（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上収益	事業利益	EBITDA	IFRS 営業利益	税引前利益	当期利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	基本的1株当たり当期利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想 (A)	257,993	-	-	7,440	5,167	2,474	1,624	18.94
実績値 (B)	235,334	5,632	14,319	△4,606	△8,839	△6,798	△6,447	△88.62
増減額 (B-A)	△22,659	-	-	△12,047	△14,006	△9,272	△8,070	-
増減率 (%)	△8.8	-	-	-	-	-	-	-
(ご参考) 前期実績 (2019年3月期)	244,360	8,499	17,728	4,082	2,716	1,150	632	5.72

#### (2) 差異の理由

当第3四半期までは宴会の減少等に伴い居酒屋業態は苦戦を強いられたものの、レストラン業態が堅調に推移したことから、連結業績は順調に進捗しておりました。

しかしながら新型コロナウイルスの感染が深刻化してきた2月下旬から3月になると、北海道を皮切りに大都市圏で週末の外出自粛要請が出され、来店客数の急激な減少に見舞われました。また新型コロナウイルスの感染拡大の抑止を目的とした臨時休業や時短営業を実施したことから、宴会需要の低迷で苦戦していた居酒屋業態の状況が更に悪化しただけでなく、堅調に推移していたレストラン業態においても、3月の既存店売上が前年を大幅に下回る結果となりました。このため当連結会計年度の連結業績につきましては、売上収益が2,353億34百万円、事業利益は56億32百万円、EBITDAは14,319百万円と計画を下回り、またIFRS営業利益以下につきましては、新型コロナウイルス関連の影響を踏まえ、前述の追加的な減損損失及び閉店損失引当金繰入や投資有価証券評価損の計上もあり、何れも損失となりました。

尚、資金面と致しましては、連結グループとして現預金及び運転資金借入枠を合わせ、760億円の資金を用意しております。想定以上に新型コロナウイルス禍が長引いた場合にも対応できる状況になっております。

以上